



●赤谷の森のいま

赤谷プロジェクト地域にある 湿地の生き物たち

赤谷プロジェクトサポーター 和田 晴美

●地域と繋がる赤谷プロジェクト

登山ガイド 松田 和昭

●旧赤沢スキー場で森林教室を行いました！

赤谷森林ふれあい推進センター

(春山の芽吹きを見つめるシジュウカラ 撮影：赤谷森林ふれあい推進センター)

AKAYANO MORIDAYORI

赤谷の森だより

2026.8.1

vol. 62



コンロンソウ

AKAYA no MORI

ミニ写真館

今回のテーマ

「初夏を彩る花々」

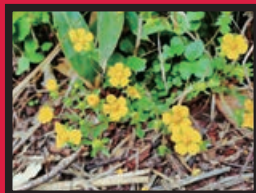
(写真：赤谷森林ふれあい推進センター)



ツバメオモト



ハクサンイチゲ



ミツバツチグリ



ベニサラサドウダン

赤谷の森の
いま

赤谷プロジェクト地域にある

湿地の生き物たち



赤谷プロジェクトサポーター

和田 晴美

赤谷には、赤谷プロジェクトサポーターが20年近くにわたって通っている場所があります。そこは小さな湿地ですが、飽きない魅力があります。湿地と聞くと、どんな印象でしょうか。群馬県なら尾瀬？花の咲く美しい場所？ヨーロッパでは、泥沼に引きずり込まれる不気味な場所と思われたこともあったようです。湿地のイメージは、きっと人それぞれでしょう。

わけではないトンボです。サポーターの一人がこの場所を調べてくださると申し出て、活動が始まりました。するとたくさんのトンボや、背中に卵を載せたオオコイムシがいたり、早春にはクロサンショウウオのたくさんの卵塊、7月にはモリアオガエルの泡の卵塊が木の枝にぶら下がり、中には食虫植物のイヌタヌキモが繁茂し、あるいは水中に丸くくりぬいた葉があつたり（エグリトビケラの仕業）、小さな二枚貝（マメシジミ）を見つけた。この湿地に行くところ知らなかつたものを探す「探検」をしている気分です。だから、楽しい！実はハッチョウトンボを見たのはこの1度だけだったの

この湿地は山の中腹にあります。2005年、赤谷森林ふれあい推進センターからクロサンショウウオがたくさん卵を産んでいるとの報告がありました。行つて見ると、そこは山の斜面の林内にぽつかりと開けた平らな場所、草地と水たまりが見えます。中に入ると、足元がゆらゆらと揺れるのです。味わつたことのない感覚！さらに足元にモウセンゴケ発見。2007年7月には、赤い小さなトンボ、ハッチョウトンボを発見。尾瀬などにはいますが、どこでも見られる



オオコイムシ

エグリトビケラが
丸く切り取った！



切り取った葉で作った巣から顔を出すエグリトビケラ

です。この1匹が、私たちをここに導いてくれたかのように思いました。ありがとう！
私たちは専門家ではありませんから、図鑑と首つ引き、さらには何人もの詳しい方々に聞き、来ていただき教えて頂きました。地下に泥炭層のあることもわかりました。
見続けていると、気になることが出てきます。草丈の低い場所に、ヨシがどんどん進出してくる。刈り取りたいと思い、ヨシ進出を写真に撮り、報告しました。水面の見え方が毎年どんどん減少し、夏には干上がり泥沼になってしまふ！カエルやサンショウウオの子供、ヤゴたちは生き残れるのか？オオコイムシはもうずっと姿を見ていない！自然の遷移にまかせるべきだという意見もありましたが、少しでも生き物たちの助けにならないかと、日本自然保護協会に申し出て、少しずつ泥の浚渫を行いました。それでも水面は減少し、クロサンショウウオの卵塊数は減少していく…何とか水を増やせないか…
調査で分かったのは、この場所の水源は湧水。ほぼ1年中10℃を切る水温の貧栄養の水が複数ヶ所から安定して流れ出ています。地滑りで出来た地形で、そのトツプ付近から水が湧いています。地下には水を通さない地層があり、その上に水が溜まつて湿地や池を作っていたのです。



クロサンショウウオ卵塊



▲湿地で観察

地元の方から、昔この場所は水面の広がる池だったこと、さらに、かつて下流にある集落が、錦鯉の稚魚を飼うために取水をしたと聞きました。田中角栄氏が首相の頃のことです。そこで少しでも水が湿地にどまると、水の流れを少し変える作業もしました。すると、2021年から、クロサンショウウオの卵塊の数が増え始めたのです。オオコイムシも2021年から毎年姿を見せています。多くの方々の協力に感謝しています。
ところが今、アゼスゲが急速に増え、今までの植物が姿を消していつています。残念です。原因には周辺の土砂流入・土の栄養分増加の可能性もあるかとも思っています。これからも試行錯誤の連続。皆様のご協力をお願いします。

地域と繋がる 赤谷プロジェクト

登山ガイド

まつだ かずあき
松田 和昭さん



自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

みなかみ山岳ガイド協会所属の登山ガイドの松田和昭と申します。ガイドツアーを通してお客さんに森や山と親しんでもらい、楽しんでいただくことで自然のことを好きになりひいては環境問題に関して興味を持って貰う、そんなことを目標にご案内をしています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

古い話なので詳細は忘れてしまいましたが、みなかみ町の出版物で知り連絡を取らせていただいた記憶があります。まさかこんな片田舎の小さな町でそんなプロジェクトが行われていたとは知らず驚きました。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

先日森林管理局のかたと話しましたが、赤谷の森にいるヤマビルを何とか減らしたいと思っています。ヤマビルが多くては登山者やハイカーが楽しめません。

もう一つはヤマセミの生息環境などが調査出来ればと思っています。子供の頃、自宅前の赤谷川に飛び込んで魚を喰っていたヤマセミを見て感動して自然のことに興味を持ちました。最近でもヤマセミの鳴き声は聞こえはするのですが、子供のころに比べると回数が減った気がします。赤谷の森や赤谷川での生息状況がどうなっているのかが気になります。

赤谷プロジェクトへ一言! (何でもOK!)

自然を守る為には、多くの人々にその大切さや現状を知ってもらう必要があります。

赤谷プロジェクトは各種イベントの催行や出版など、継続していただいて感謝しています。こつこつと続けることが何よりの力になると思っています。



▲ ガイド風景 ▲

新たな取り組み

旧赤沢スキー場で

New initiatives

森林教室を行いました!

赤谷森林ふれあい推進センター

2024年に幕を閉じた赤沢スキー場は、いま新たな形での活用が模索されています。

私たち赤谷森林ふれあい推進センターは、みなかみ町立新治小学校の総合学習の時間に、赤谷の森体験学習を実施しています。これまでは小出俣林道という森の中の道を歩いて自然観察を行っていましたが、今年から旧赤沢スキー場での学習に切り替えました。

閉業から間もないため、当時の面影を残すロッジを拠点として活用し、午前中はロッジ内で森林の仕組みや働き、種子の違いなどを学習しました。午後は、林業道具の体験、土壌の浄水効果の実験、樹木の見分け方、森林の恵み探しなどを行いました。

子どもたちは、標高差のある斜面を歩きながら、樹種の違い

や動物の痕跡を観察しました。「普段見ている森林がこんなに働き者だなんて知らなかった」「動物が本当に来ていることがわかっておもしろい」といった感想もあり、開けた空間ならではの見通しの良さの中で、森の広がりや開放感を実感していました。安全管理のしやすさも特徴の一つです。

スキー場は「使われなくなった場所」ではなく、自然と人との関わりを学ぶ新たなフィールドとして大きな可能性を持っています。旧赤沢スキー場での森林教室は、森林を見る目を育み、木材を大切にしようとする心を養ういい機会になると考えます。





色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



R8.5.16

5月赤谷の日 ニッコウシグ保全活動

近年シカの食害やササの被圧により少なくなってしまったニッコウシグを、観光資源として保全する目的でシカ食害防止ネットを毎年設置しており、今年も赤谷サポーターと共に実施。



R8.5.22

利根商業高校 みなかみふるさと創生学フィールド学習

いきもの村にて、赤谷プロジェクトの活動である地域づくりや有害鳥獣捕獲等の学習をし、今後の探求学習に活かす。



R8.5.24

放送大学面接授業

数多くの試験地がある小出俣林道で、国有林野の生物多様性復元事業を学ぶ講義を実施。



R8.5.28

新治小学校5年生 赤谷の森体験学習

初夏の陽気に包まれた旧赤沢スキー場で森林の仕組みを学習・観察し、山林の大切さや生物多様性の重要性を学ぶ。



R8.5.30

赤谷の森自然散策(春) 三国山山頂を目指して
異例の暑さの中、初夏の花々を堪能しながら三国権現を経由し、山頂から赤谷エリアの景色を眺める。



R8.6.11

新治小学校6年生 赤谷の森旧三国街道歴史学習
みなかみ町にある永井宿・猿ヶ京宿・須川宿を、かつて物流に使われていた旧三国街道をたどりながら巡る。

お知らせ

赤谷森林ふれあい推進センターHPリニューアル!

赤谷森林ふれあい推進センターの公式ホームページをリニューアルしました。
デザインが一新され、情報が見やすくなり、イベントや活動内容も探しやすくなっています。
赤谷プロジェクトの活動や赤谷の日に関する最新情報も随時更新されており、
赤谷の魅力や取組をより身近に感じていただける内容となっています。ぜひ一度ご覧ください!

\ HPはこちら /



赤谷プロジェクトって?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。
活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万ha(10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせください。



赤谷森林ふれあい推進センター

検索

イベントのお知らせ

赤谷の森自然散策(秋)

日 令和8年10月31日(土)

時 9:00~16:00(予定)

場 旧三国街道(群馬県利根郡みなかみ町)

料 無料

申 要申込 ※10月上旬頃にHP等でお知らせします

赤谷プロジェクト特設展示ブース

日 令和8年10月1日(木)~10月30日(金)

時 期間内は終日展示しております

場 JR上毛高原駅構内

料 無料

申 不要

難易度:低

赤谷プロジェクトサポーター募集!



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。

詳しくはこちら



■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会 ☞ akaya@nacsj.or.jp

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※「森のおもちゃの家」内

理事 本多 結

メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4101

プロジェクト担当 萩原 正朗

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 伊藤 秀晃

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp